

Sakai, M., Hishii, T., Takeda, S., and Kohshima, S. 2006.

Flipper rubbing behaviors in wild bottlenose dolphins (*Tursiops aduncus*).

Marine Mammal Science 22: 966-978.

日本語タイトル

野生ミナミハンドウイルカ (*Tursiops aduncus*) におけるラビング行動

#### 要旨日本語訳

東京都御蔵島にて野生ミナミハンドウイルカのラビング行動 (“flipper rubbing” behavior) の定量的分析を行った。ラビングは2形態に分けられた: (1) F-B rubbing では、一方のイルカ (Rubber) が胸ビレで相手のイルカ (Rubbee) の体の様々な部位をこすった。(2) F-F rubbing では、両方のイルカがお互いの胸ビレ前縁部を交互にこすった。F-B rubbing は Rubbee が相手に近づくことによって始められ、Rubber が相手から離れることによって終わられる傾向があった。Rubbee はしばしば Rubber に接触している体の部位をこすりつけるように動かし、さらに、横向き・逆さ・その他等の姿勢をとることが多かった。一方で、Rubber はほとんどの事例で水平の姿勢を保っていた。これらの結果は、Rubbee が Rubber よりも積極的にラビングに参加していること、ラビング中に摩擦を伴う接触から何らかの利益を得ていることを示唆する。ラビング中に、イルカたちはよく Rubber と Rubbee の役割を交代した。オトナとサブアダルトの場合、F-B rubbing および F-F rubbing は、同性・同成長段階同士のペアで多く観察された。F-B rubbing は母子間でも頻繁に観察された。本研究の結果は、ラビングが親和的行動であり、今後、個体間の社会関係を量的に計る指標になりうることを示している。

---

訳者: 酒井麻衣 翻訳日: 2012年4月3日

※日本語要旨は第一著者の承諾の元に作成しました。訳者が第一著者と同一でない場合、訳文に責任は持たませんので、正確な情報が入り用の場合は、原文をご覧ください。